



大好き札幌

「大好き」だからこそ やりたい事があるのです。

札幌市議会議員

中川賢一 けんいち

平成29年度 市議会定例会報告

(第1回定例会、第2回定例会)

膨張する保健福祉、
社会保障関係費が長期的課題

平成29年札幌市第一回定例会市議会(一定議会)が2月21日から3月30日まで約1ヶ月半にわたり開かれ、秋元市政任期折り返しの平成29年度当初予算が審議されました。

「子育て支援」や「経済活性化」などの課題に着実に取り組むとの方針に基づき、29年度の一般会計予算は前年度6.4%増の9,965億円と、1兆円の大会に迫る過去最大規模となりましたが、国の制度変更に伴う県費負担教職員給与の財源移譲があったためであり、実質的には前年度比1.7%減の9,207億円となりました。

歳出項目別では保健福祉費が3,657億円と全体の37%を占め、医療、福祉、子育てなどに対する支出が最も多くなっています。

また、一般会計とは別に独立して計上される特別会計は、「国民健康保険会計」、「介護保険会計」、「後期高齢者医療会計」など大半が社会保障関係で構成されています。これらも含めた一般会計、

特別会計合算では、総額約1兆3,942億円のうち、保健福祉や社会保障に関連する予算が合計で約7,596億円と全体の約55%を占めるに至っています。

札幌市は65歳以上の比率が約25%と全国値の26.7%より若干低い水準であります。深刻な少子化、また近年は全道から住みやすい札幌に高齢者が移住する傾向がみられるなど、社会保障の財政負担が今後も大きくなっていくことは避けられません。健康寿命を延ばす取組など先を見据えた対策を積極的に検討していくことが必要です。

また、平成29年第2回定例会は、5月30日から6月13日までの日程で開催され、ICTの活用戦略などの補正予算が措置され、当初予算と二定補正合計の一般会計予算額は1兆円の大会に乗る積極予算となりました。

予算特別委員会では昨年に引き続き会派最多の質疑を展開

各部局の予算案等を個別に審議する予算特別委員会においては、私は昨年に引き続き会派最多の7回質問に立ち、幅広いテーマについて積極的に質疑を行いました。

特に、都心の大型プロジェクトや老朽化が急速に進む公共施設などについて、経済性や計画的な管理、施設の複合利用など、経営感覚を持って臨むべきことを強く主張させていただきました。

主な質疑内容

北1条西1丁目建設中の市民交流複合プラザについて

300億円以上の建設費を投入して「都心の賑わい創出」を目的として整備しているが、年間利用者数100万人人というのは、民間などの交流施設と比較してもあまりにも低い。市には投資額に見合った目標と施設運用を目指す義務がある。



【成果】民間の先進的な取組を参考にするほか、道内外からの集客など人の来訪や交流の促進が図られるような事業を展開し、経済効果をもたらすような施設となるよう取り組む姿勢を引き出すとともに、目標とその成果を適正に検証していくことも確認出来ました。

公共施設の老朽化が急速に進むこともあり、公共施設の管理について

計画的・効率的に管理していくためには、仙台市のような部局間を横断した資産管理体制を検討すべき。

【成果】幅広い分野にわたっている市有施設だが、固定資産台帳の整備が整いつつあるので、他の自治体の取組なども参考にしながら、資産管理の在り方を検討する旨の方向性を確認できました。

小学校プールについて

学校プールは年間平均700万円のコストが掛かっているのに対し、利用は年間わずか36時間、72時間程度。現在の1校1プールの方針を改め、学校間での共同利用や民間施設の利用などを進めるべき。

【成果】今後、学校施設の維持更新事業が加速化する中、共同利用などの可能性やそれに伴う影響なども検証するなど、学校施設の適正配置を検討していく旨の答弁をいただきました。

中島公園周辺のまちづくりについて

都心のまちづくり計画の中で、中島公園周辺エリアという都心部にありながら緑や歴史・文化が豊かな地域を有効に活かしていくことが必要であり、市として主体性を持って取り組むべきではないか。

【成果】札幌駅前通りの南端にあり、すすきにも隣接した中島公園周辺は、これからのまちづくりの上で貴重な資源であることを再認識いただき、民間のプロジェクトなども見据えて主体的に対応する姿勢を確認できました。

任期前半、積極的な議会論議を展開

中央区選出議員最多41回の質疑回数

市議会議員1期目も任期4年間の折り返しを過ぎました。この間、とにかく新人らしく積極的に議会論議に参加するよう努め、結果、前半2年間の質疑回数は、会派を代表しての2度の代表質問を含む計41回となりました。これは中央区選出議員の中で2番目を大きく引き離れた最多回数です。

後半2年間も市政の課題に幅広く目を向け、積極的な議会活動に努めてまいります。



平成28年第4回定例会代表質問

札幌市議会議員

中川賢一 けんいち

中川賢一 市政事務所

〒064-0920 札幌市中央区南20条西6丁目4-10

TEL 011-520-0001 FAX 011-520-8888 URL daisuki-sapporo.net

中川 賢一 プロフィール

kenichi nakagawa profile

1967(昭和42)年1月9日 札幌市生まれ ●緑が丘小学校、伏見中学校、札幌南高校卒業/東北大学経済学部経済学科卒業/シンガポール国立大学エクステンション・プロフェッショナル・ディプロマ・アジア・パシフィック・マーケティング終了 ●平成元年 北海道拓殖銀行入行/平成6年 北海道庁奉職、主に経済政策、観光、国際ビジネス支援などの分野に従事/平成15年 北海道シンガポール事務所駐在員・道庁退職後、札幌国際大学非常勤講師(国際観光)、札幌商工会議所付属専門学校北海道観光学科講師、食料品企画開発・輸出、経営コンサルティングなどに従事 ●平成27年 札幌市議会議員 当選(1期目) 札幌市議会厚生委員会委員、大都市税財政制度・人口減少対策調査特別委員会委員 ●(公職)NPO法人コンパサーレ(障害者職業訓練・就業支援)理事/一般社団法人北海道農水産物事業者協会顧問/一般社団法人ビジネスコミュニケーション協会顧問/一般社団法人北海道タイ親善協会理事/鴨々川を清流にする会顧問 その他 ●(好きな言葉)しあわせはいつも自分の心が決める ●(家族)シンガポール出身の妻と一男一女/愛犬 ムギ(ゴールデンレトリバー)

大好き札幌通信
(平成29年夏号)

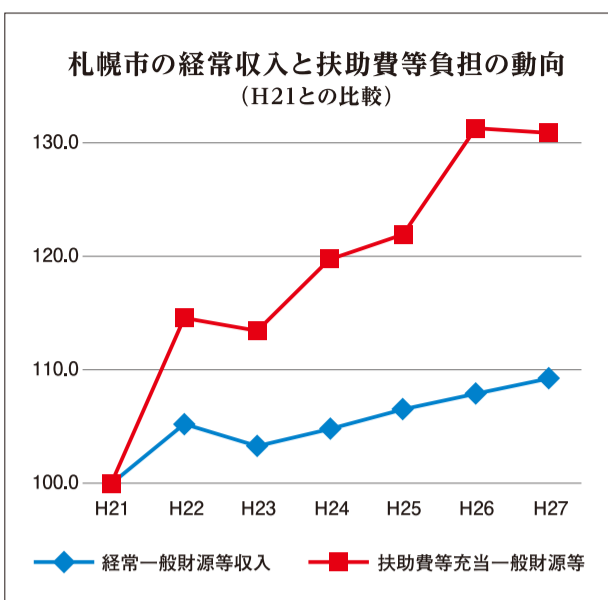
厚生常任委員会委員、 大都市税財政制度・ 人口減少対策調査特別 委員会理事に就任

29年度は6つの常任委員会のうち「厚生委員会」に所属。予算の大半を占める保健福祉や社会保障など課題山積の分野が担当になります。
生活保護費、児童福祉費、障害福祉費、医療助成などを合計したものを「扶助費」と呼び、札幌市はその負担が政令指定都市20市の中でも3番目に高い比率です。

平成21年度以降の市の経常収入とそのうちの扶助費充当額の推移をグラフにしてみると、収入があまり伸びていないのに対し、扶助費充当額は30%以上も増加しており、まるで「ワニの口」のように見えます。このワニの口状態は札幌のみならずほとんどの自治体にみられ、今後ますます大きくなっていくことが確実視されます。

このような中、適切な事務等により支出をできるだけ抑制していく努力は市として当然であり、その点はしっかり監視していくとともに、少子高齢化という構造的な課題に要因がある以上、抜本的にどういう方向があり得るのか、多様な角度から研究していきたいと思っています。

また、「大都市税財政制度・人口減少調査特別委員会」では自民党派を代表して理事を仰せつかりました。人口減少と超高齢社会、そして公共施設の一斉老朽化などを背景に極めて厳しい状況にある地方自治体の財政をどうしていくのか、しっかりと研究し、必要なことは国へも働きかけていきます。



▲市内の高齢者住宅見学ツアーに参加



活動トピックス



▲厚生委員会視察での討議 (金沢市)



▲高齢者施設事業者との意見交換会



▲大都市税財政制度・人口減少調査特別委員会質疑



▲介護ロボットショールームでマッスルスーツを体験



▲山鼻南小の食育授業に参加



▲札幌護国神社での清掃奉仕



▲北海道神宮祭での山車引き

自身初の市政報告会を開催 任期前半の活動報告と 後半に向けた抱負を語る

4年の任期も折り返しを過ぎた5月13日、東本願寺内にある大谷ホールを会場に初めての市政報告会を開催しました。

「大好き札幌とその未来」というテーマで、ふるさと札幌への思いや人口減少社会を迎えての厳しい現状、それらを克服していくために地域や生活の現場とのつながりをいかに重視しているかという点などをお話しさせていただきました。

さらに札幌の未来にとって最も大切なのは、「北海道の輝き」。食をはじめとする北海道の豊かな恵みを背

景に札幌は発展してきました。この北海道の輝きが失われて、札幌だけが輝くなんてことは決してない。

産業や交通、人の賑わいなど札幌の充実を通じて北海道全体を輝かせていく姿勢が重要だという、わたくしの未来ビジョンを語らせていただきました。

当日は土曜の午後にもかかわらず、地域の多くの方々にご参加いただき、また同じく中央区を地盤とする長谷川



岳参議、千葉英守道議からもそれぞれ、日本・北海道の中での札幌のあり方をお示しいただき、充実した報告会とすることができました。これからも地域の皆様と向き合う機会を大切にしていきたいと思っています。

地域が主役の時代を 中川とともに!

地域の発展なくして日本の発展なし！これからの日本を支えるのは地域の力です。南北に長い日本には、多様な地域の個性と営みがあります。これらの多様な力が日本再生の原動力となるはず。日本の最も北に位置する北海道。大きな可能性を有するこの大地を牽引するのが札幌の使命であり、我々が動かなくてはなりません。

私中川は地域の皆さんの声に耳を傾け、ともに知恵を出し、汗をかき、札幌発の「地方創生」を進めていきたいと考えています。一緒に札幌の未来を創り上げていきましょう！

